

屋根雪処理などに伴う事故防止への取り組みに関わる緊急会長談話

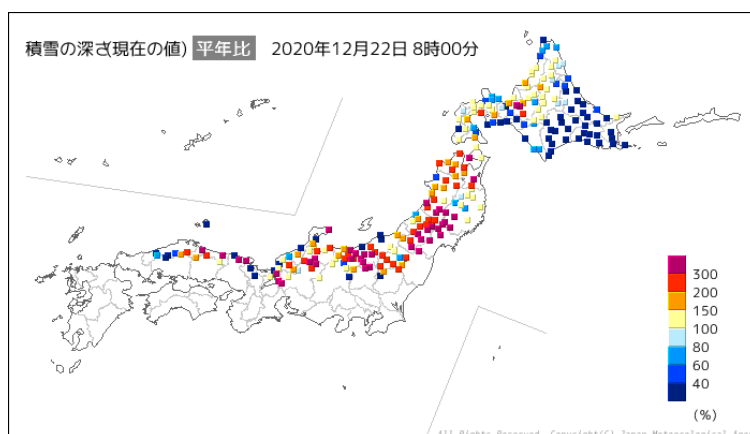
日本建築学会 会長 竹脇 出

日本雪工学会 会長 高橋 徹

2020年12月14日からこれまでの1週間で、日本海側の多雪地域に加え、北関東や中部地域などでも、2mを超える積雪を観測している地点も出ており、今後、一時的に気温が高くなったタイミングで、屋根の雪下ろしなどの活動が盛んになることが予想されます。雪下ろしは、安全装備無しに実施すると、慣れた人でも滑落の危険性があるだけでなく、手順を間違えると家屋損壊などの被害に結びつく危険性もあるため、あわてて行わないことが重要です。しかしながら、気象庁の観測に依れば、12月22日現在、平年の値以上となっている地点が半数(163/328)、2倍以上の地点が1/4(82/328)に達しており、年末から年始に掛けて、更なる寒波が予測されている状況を踏まえると、屋根雪処理の必要性は今後高まると言わざるを得ません。24日に予測されている雨は、積雪の多い地域において雪の重さを減らさない可能性が高く、屋根からの落雪や雪崩を誘発する恐れもあります。

雪害では、昭和38年豪雪(231名死亡)や平成18年豪雪(152名死亡)の例を引くまでもなく、大雪の年には100名を超える死者が発生しております。近年では、その7割以上が屋根の雪下ろしなどの除雪作業中に亡くなる高齢者が占められており、高齢化が加速している日本社会の現実を表している災害でもあります。

現状は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、除雪ボランティアを集めにくい状況でもあります。高齢者が単独で屋根に上る危険を冒さずにすむように、必要に応じて遅滞なく自衛隊派遣などの公的援助が為され、この災害を乗り越えられますよう、ここに声明を発する次第です。



参考図 気象庁 (<https://jma.go.jp/> : 12月22日閲覧) による

参考: 「with コロナ期における雪かき活動ガイドライン (第1版)」 日本雪工学会

http://www.snoweng.org/?page_id=2383

: 雪下ろしの安全対策に関する情報(指南書) 越後雪かき道場

<http://dojo.snow-rescue.net/>